

# パーマネント神喜劇

## 万城目学

「やっと」と言うべきか、「もう」と言うべきか、年末が近づいてきました。今年はなんだか毎日気を張っていたし、思うように遊べなかったし、疲れちゃったな、と思っている人も多いかもしれません。私も休校期間、みなさんの声が聞こえない学校ですごして寂しく思いましたし、学校で会えていることのありがたみを改めて感じた1年でした。そんななかで楽しく感じられることといえば、本を読むこと、映画やドラマを見ることだったかなあと思います。『心の傷を癒すということ』『DIVER』『スパイの妻』など神戸で撮影が行われた作品の公開も多くあり、見慣れた景色を画面越しに見て、行きたいな…と思ったり。

最近まで見ていたのが『バベル九朔』。関西のお話ではありませんが、原作は万城目学さん！今年文庫化された彼の小説、『パーマネント神喜劇』もおもしろかったです。4篇のお話が収録されていて、「はじめの一步」は2010年放送の「世にも奇妙な物語」のために書かれたものです。伊東四朗さん、遠藤憲一さん、大野智さん、田中麗奈さんといった豪華な配役だったそうですよ。どこがおもしろかったのかというと、なんといっても神様のゆるさ。そのへんのおっさん感がすごいのです。派手な服にぼっちゃり体型。しゃべり方も神様から連想される重々しい感じは全くありません。でも、とても優しく人間思いな、憎めない神様です。

「エマージェンシー。どえらいエマージェンシー。あんたも感じる？このかそけき余韻。明らかに神の手によって、言霊が放たれたあとのものだよ」

声に出して読みたくなるような語呂の良さ。なんだか元気が出てきます。純粋なエンターテインメントを味わえる万城目ワールドに肩まで浸かって、今年の疲れを笑い飛ばしてみるのもいいかもしれません。来年はもう少し落ち着いてすごせるようになるといいな。神頼みするしかないかな。

### 万城目学

1976年、大阪府出身。京都大学法学部卒業。化学繊維会社勤務を経て、2006年に『鴨川ホルモー』でポイルドエッグズ新人賞を受賞しデビュー。ほかの著作に『鹿男あをによし』『プリンセス・トヨトミ』『かのごちゃんとマドレーヌ夫人』『偉大なる、しゅららぼん』『バベル九朔』などがある。